

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201884		
法人名	株式会社日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム ハーベスト		
所在地	静岡県静岡市清水区渋川二丁目14-20		
自己評価作成日	令和 4年 9月 11日	評価結果市町村受理日	令和4年11月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2274201884-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4年 9月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在、ボランティアさんの受け入れは中止していますが、レクリエーション係が中心となり、色々なイベントを企画し、実行しています。ホーム内の清潔に気を配り、入居者様が生活しやすい環境整備を心掛けて、個々のスタッフがケアに携わっています。また、現在のADLを維持して頂きたいという思いから、生活の中で出来る運動も曜日などを決め行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今回の台風で道路の冠水箇所があり、停電も発生したが近所の電気屋さんが応急処置に来てくれた。事業所は清掃が行き届き清潔で整理整頓ができています。長く勤務している職員が多く、職員間の情報共有やコミュニケーションがとれ働きやすい職場環境が作られている。職員は利用者に声かけをして寄り添い、コロナ禍で外出が自粛される中、イベント係が楽しみを探し実現している。長時間の外出はできないが職員が利用者を2人位連れ時にはドライブを楽しんでいる。食事は献立係が4週間分献立を考え、ネットスーパーから届く食材を職員が手作りし、調理が得意なベテランの職員が新人にも指導している。各種マニュアルは整備され、管理者は事故報告書の様式など不便な資料はわかりやすく現状に対応できるように改善を考え、将来に備えタブレット入力も取り入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	時折、廊下に貼ってある理念を読み直し、意味をよく考えて行動する様にしている。個人面談時に施設の理念が理解出来ているか確認する機会を作っている。「一緒に笑って暮らす家」を職員も認識しており、レクリエーションの時間を設け皆が一緒に出来ることで笑顔がみられる。	理念は今年4月に管理者の交代時に検討した結果、覚えやすく親しみがあるという理由で変更せず使用している。玄関、階段横、2階など職員の見える場所へ掲示し、職員との個人面談で理解度を確認する機会を設け、職員への浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	レクリエーションを行う際、ボランティアさんに協力していただいたり、地区の夏祭りや行事の案内をいただき、参加していたが、現在は感染症対策のため、散歩で挨拶を交わす程度である。	現在はコロナ禍で近所付き合いが制限され、行事も中止されているが、以前は夏祭りや地区の防災訓練に参加していた。自治会長を通じて行事の連絡を頂き、近くの職員も把握している。今年は11月に地区の行事で作品展示の機会があり、製作に力を入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加していただき、話をさせて頂いています。自治会での取り組みなどを伺い、意見交換をさせていただく事もある。ただし現在は、感染予防により運営推進会議の開催は中止しているため、書面上で意見などを頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況、事故報告などを報告させて頂き、出た疑問点や意見については、真摯に受け止め、取り組む様にしている。ただし現在は感染予防のため、会議の開催は中止しているため、書面上で意見などを頂いている。	運営推進会議は書面で開催している。自治会長、民生委員、市役所、家族には議事録を送付し、地域包括支援センターには直接届け、その際に意見を頂き、サービス向上に活かしている。職員には回覧している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	可能な限り、役所や包括支援センターに出向き、直接担当者とやり取りをする様にしているが、感染予防のため、電話や郵送FAXによる連絡が多くなっている。	地域包括支援センターとは入居の紹介等意見交換をしている。防災訓練を行う時には消防署に意見を伺うなど、積極的に地域の担当者へ連絡を取っている、今回の台風の災害で防災課等に実情報告を行う予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者とケアマネジャーを含めた委員会を作り、身体拘束委員会を3カ月ごとにし、会議などの機会を利用し勉強会を開催しており、職員全員で実践している。玄関の施錠においては昨年より防犯上施錠している。	マニュアル、指針は整備され、委員会は管理者とケアマネジャー、1・2階の職員で構成され、年に4回行われている。委員会の議事録は職員も閲覧している。研修は年に3回行われていて、研修計画を立て、結果は法人本部に報告している。	

静岡県(グループホームハーベスト)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会の会議時に、身体拘束とともに虐待についても考えている。ホームで行う勉強会を通して、職員にも考える機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護がついている入居者様も在籍しているのである程度は把握しているが、職員間で知識の差はある。今年はまだ権利擁護や成年後見人についての勉強会はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ご本人やご家族と十分な話し合いを持ち、きちんと説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場で意見交換をさせていただいていたが、現在は行えていないため、議事録をお送りしている。来設時や面会時に声を掛けさせて頂き、意見交換が出来る様努めている。	毎月家族に個別の内容でお便りを作成し、写真を添えて郵送している。近所の家族が毎日窓越しで顔を見に来たり、コロナの影響で面会形式も変化している状況だが、リモートで行ったり玄関で対面してもらったり様々に工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に意見交換、提案を聴く機会を設けている。職員から出た意見について、話し合いが必要な物については、他の職員とも話し合い、業務に反映させている。	月に1度、ミーティングとカンファレンスを行い、2か月に1度は合同ミーティングを行っている。管理者は年に1回職員と面談を行い、介護職の時には日頃から職員に声を掛け、意見を聞くようにしている。職員間で情報共有が出来ている。	職員間の情報共有は出来ているが、回覧後のサインや捺印など、確認したことを明確にする習慣付けの徹底に期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価シートを導入し、個々の職員と面談を実施している。日頃から、職員には声を掛けて職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修を実施している。職員が研修に参加し、持ち帰って他の職員に周知する機会を設けている。今後キャリアアップを目指す職員においては面接時において方向性や時期などを確認し、後押し出来る様に努めている。		

静岡県(グループホームハーベスト)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの関係で、他施設と交流する機会は減少しているが、以前は研修などで同業者と交流する機会があった運営推進会議に、同地域のデイの管理者様に参加してもらい意見交換を行っていた。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時や面会時に、ご本人やご家族等の要望などを聴き、出来る範囲で実行出来るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回アセスメントやサービス計画書に目を通し、ご本人やご家族の要望を考慮しながら入居者様本人が、ホームの生活に馴染める様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回アセスメントから、ご本人が出来る事と出来ない事を確認し、家事参加など、それぞれの入居者様が出来る事を手伝っていただけるよう、関りを持っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事参加など、それぞれの入居者様が出来る事を手伝っていただけるよう、関りを持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来ていただけるよう、ご家族とも良好な関係を築けるよう努め、ご家族に相談しながら支援していける体制作りを心掛けている。支援の中でご家族からの声掛けが必要な場合などは協力頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自室内も馴染みの場所として、環境整備に努めている。大切にしてきた人や場所の話聴くなどの関りを大切にしている。	コロナ前は家族と外出や外食を楽しんだり、季節物の衣替えの入れ替えに家族が来所したりしていた。コロナ禍で出来る事を模索しながら、希望があると電話の取次ぎを行ったり、馴染みの関係継続を続けている。	

静岡県(グループホームハーベスト)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間の自席を決める際には、年齢や身体状況、性格などを考慮し、話をしやすい環境になるよう工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後などは、管理者が主に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向や、ご家族からも情報を収集してアセスメントをとり、一人一人に合った生活スタイルを考えて、実行している。	思いや意向を本人に聞くことが困難な場合は、家族に話を聴いている。入浴などの1対1になる機会に聴いた意見や困難な方には言葉で反応したことを観察して職員で情報を共有している。リハビリのメニューは継続して活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時や、普段の会話の中から家の事や家族の事、若い頃の話などを聴く様になっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子や精神状態などの気付いた事は申し送りや支援記録にて、スタッフ全員が把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まず担当者がモニタリングし、その後カンファレンスで現状の問題点や改善点、ご本人がしたい事などを話し合い、ケアプランに反映させている。	担当職員がモニタリングのシートに沿ってモニタリングを行い、会議でそれに基づいてカンファレンスをしている。ケアマネジャーがそれらと日報、申し送りノートを参考に医師や看護師、訪問マッサージ師、家族等の意見を聞いて介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別に記録し、スタッフ間で共有、ケアプランに反映している。		

静岡県(グループホームハーベスト)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージや訪問診療など、ご家族やホームでは補えないサービスが提供できる環境整備に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんの訪問や、地域の行事に参加するなど、適度な変化のある暮らしが送れるよう工夫している。現在はコロナ感染予防のためボランティアは受け入れていないが、自治会の催しものに入居者様と共同制作したものを展示している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向に沿った医療が受けられるよう、主治医や協力医と連携をしながら支援している。	ほとんどの利用者は協力医の往診を月2回受け、入居前からのかかりつけ医の診療を受けている利用者は家族対応をお願いしている。協力医は24時間対応で、協力医院の看護師が週1回訪れ、相談にのってくれる。コロナがまん延している時にはオンライン診療で対応した。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルや体調などを記録に残し、細かな事でもきちんと相談出来るような体制を整えている。看護師による健康相談などもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	必要な情報を医療機関に提供したり、情報交換をすることで、適切な医療が受けられている。退院後の生活がより良い物になる様、情報収集に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約の際に、ご家族に説明して意向を確認している。必要時に話し合いの場を設け、主治医からの説明を受けたいうえで、出来るケアについてご家族に説明し、スタッフ間で共有して支援している。	入居時に重度化や終末期について説明をし家族の意向を確認している。重度化、終末期になると、医師に状況の説明をしてもらい、事業所と家族で今後の対応を話し合い、医師からの指示を共有し支援をしている。協力医は職員に看取りについての研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、ホーム内外の研修で学んだ事をスタッフ間で共有し、対応できるよう日々取り組んでいる。		

静岡県(グループホームハーベスト)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、入居者様一人一人の避難の方法を検討している。コロナ禍前は地域の防災訓練にも参加させていたが、情報交換や交流を図っている。	水害、地震火事の想定で防災訓練を行い、消防署の職員が参加してくれることもある。災害委員が計画書をたて、訓練後は法人に報告し、備蓄は補充も含めて法人が管理している。夜間想定訓練も行っているが課題が見られる。	夜間想定訓練は行っているが、夜勤者の意見も取り入れ、より実情に沿った訓練を目指してください。施設周りの道路の冠水注意箇所のチェックを行い、コロナ禍で希薄となった地域連携について今後の課題に出来るよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの仕方などについては、個々に考えてケアにあたっていますが、話が通じにくい事により、言葉が強くなりがちなどの反省点がある。	毎年、声掛けの勉強会や研修を行い、利用者への声掛けは職員個々で気をつけ、課題については、職員同士で注意しあっている。トイレでの対応はプライバシーや羞恥心に配慮して注意して行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、入居者様の話をよく聴き意見や希望などが言いやすい環境を整えられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースは大事にしているが、一日中寝ていては、気力が低下してしまう為、メリハリのある生活も考慮して、働き掛けを行う事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の入居者様には、声を掛けて髭剃りをこまめに行っていただいている。気に入っているものが身につけられたり、季節に合った服装が出来るよう、配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きを入居者様をお願いしている。野菜の皮むきや、寿司飯を一緒に冷ますなど、調理に携わってもらう事もある。	献立係が4週間の献立を考え、食材はスーパーのネット販売や生活協同組合を利用し、職員が手作りをしている。おはぎを一緒に作ったり、お寿司をテイクアウトするなど食の楽しみを増やす工夫を行い、利用者はテーブル拭き等出来ることを職員とともにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、きちんと記録している。水分摂取については、ゼリー状にしたり、味を変えるなどの工夫をして、摂取量が増やせるよう努めている。		

静岡県(グループホームハーベスト)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後にホットタオルで口の周りを拭くなどを行っている。口腔ケア時、必要な方には介助を行い、出血や異常があれば申し送るなどを心掛けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ間隔を気にしながら声掛けをし、できる限りトイレでの排泄を心掛けている。パットを日中と夜間で区別し、無駄のない様その人に合ったものを使用している。	職員はタブレットに排泄の記録をし、個々のパターンを把握して、トイレでの排泄を支援している。夜間も時間でトイレへ誘導するようにしているがポータブルトイレ利用の利用者もいる。自立の利用者に対しては見守り支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝に牛乳を飲んでいただいたりしている。毎回の水分摂取時に摂取量をきちんとチェックしている。体操時に、腸内運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々のパターンをつかんでいるので、気分や好みに合わせて順番を決め、気分良く入浴できるように配慮している。	午前と午後、利用者の状況にあわせて入浴支援をしている。コロナウイルスまん延中はシャワー浴だが、10月より湯船での入浴を再開する予定である。利用者は職員と会話がはずみ楽しんで入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室の室温や、掛布団の調節は常に気遣っている。静かな環境が整えられるよう、工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は一包化されているため、それぞれの入居者様が服用している薬の内容を全て把握できていないところがある。服薬介助時は、飲み込んだかの確認まで行う様に気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理強いはず、個々に合ったペースでお手伝いをお願いしている。適度に行事などを企画し、気分転換が図れる様、工夫している。		

静岡県(グループホームハーベスト)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は、ご家族の協力を得て外出支援を行っていたが、現在は、天候を見て近所を散歩するなどはあるが、外食などは中止している。	コロナ禍で外出支援を自粛していたが、現在は天候をみて近所を散歩し、順番に30分程の車中ドライブをすることを積極的に取り組んでいる。利用者個々に合わせて工夫した外出支援を心掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いを所持している入居者様もいるが、現在は入居者様が直接買い物に出る事はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキの投函などの手伝いを行っている。ご家族への電話を希望された際には、状況を考慮したうえで、直接話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りつけや、行事の写真を貼るなどを工夫している。清潔に留意している。	施設内は整理整頓、清掃が行き届き、空気清浄機を使い定期的な換気を実施し、職員中心に消毒、清掃を行い感染防止対策を心掛けている。イベントが好きな職員が積極的に季節感を感じる掲示物やイベントの写真をこまめに掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の性格などを考慮し、グループごとに席を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人なりの居室ができています。ある程度は、ご本人やご家族に任せておりスタッフは整理整頓と清潔に気を配っています。	洗面台が設置され、居室で歯磨きや身だしなみを整える事ができる。使い慣れたダンス、テレビ、家族の思いがこもった物が配置され、好みの部屋作りを支援している。現在、部屋の整理整頓は担当職員が行い、部屋の清掃ができる利用者は職員と共に清掃や整理整頓をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全が保てるよう、物の配置などに気を配り自室内のプライバシーを考え、のれんをつけたりと工夫している。字の理解が出来る方にはメモを貼って注意を促し、出来るだけ自立した生活が送れる様に支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201884		
法人名	株式会社日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム ハーベスト		
所在地	静岡県静岡市清水区渋川二丁目14-20		
自己評価作成日	令和 4年 9月 11日	評価結果市町村受理日	令和4年11月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaikogensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2274201884-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4年 9月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在、ボランティアさんの受け入れは中止していますが、レクリエーション係が中心となり、色々なイベントを企画し、実行しています。ホーム内の清潔に気を配り、入居者様が生活しやすい環境整備を心掛けて、個々のスタッフがケアに携わっています。また、現在のADLを維持して頂きたいという思いから、生活の中で出来る運動も曜日などを決め行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	時折、廊下に貼ってある理念を読み直し、意味をよく考えて行動する様にしている。個人面談時に施設の理念が理解出来ているか確認する機会を作っている。「一緒に笑って暮らす家」を職員も認識しており、レクリエーションの時間を設け皆が一緒に出来ることで笑顔がみられる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	レクリエーションを行う際、ボランティアさんに協力していただいたり、地区の夏祭りや行事の案内をいただき、参加していたが、現在は感染症対策のため、散歩で挨拶を交わす程度である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加していただき、話をさせて頂いています。自治会での取り組みなどを伺い、意見交換をさせていただく事もある。ただし現在は、感染予防により運営推進会議の開催は中止しているため、書面上で意見などを頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況、事故報告などを報告させて頂き、出た疑問点や意見については、真摯に受け止め、取り組む様にしている。ただし現在は感染予防のため、会議の開催は中止しているため、書面上で意見などを頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	可能な限り、役所や包括支援センターに出向き、直接担当者とやり取りをする様にしているが、感染予防のため、電話や郵送FAXによる連絡が多くなっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者とケアマネジャーを含めた委員会を作り、身体拘束委員会を3カ月ごとにし、会議などの機会を利用し勉強会を開催しており、職員全員で実践している。玄関の施錠においては昨年より防犯上施錠している。		

静岡県(グループホームハーベスト)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会の会議時に、身体拘束とともに虐待についても考えている。ホームで行う勉強会を通して、職員にも考える機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護がついている入居者様も在籍しているのである程度は把握しているが、職員間で知識の差はある。今年はまだ権利擁護や成年後見人についての勉強会はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ご本人やご家族と十分な話し合いを持ち、きちんと説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場で意見交換をさせていただいていたが、現在は行えていないため、議事録をお送りしている。来設時や面会時に声を掛けさせて頂き、意見交換が出来る様努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に意見交換、提案を聴く機会を設けている。職員から出た意見について、話し合いが必要な物については、他の職員とも話し合い、業務に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価シートを導入し、個々の職員と面談を実施している。日頃から、職員には声を掛けて職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修を実施している。職員が研修に参加し、持ち帰って他の職員に周知する機会を設けている。今後キャリアアップを目指す職員においては面接時において方向性や時期などを確認し、後押し出来る様に努めている。		

静岡県(グループホームハーベスト)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの関係で、他施設と交流する機会は減少しているが、以前は研修などで同業者と交流する機会があった運営推進会議に、同地域のデいの管理者様に参加してもらい意見交換を行っていた。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時や面会時に、ご本人やご家族等の要望などを聴き、出来る範囲で実行出来るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回アセスメントやサービス計画書に目を通し、ご本人やご家族の要望を考慮しながら入居者様本人が、ホームの生活に馴染める様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回アセスメントから、ご本人が出来る事と出来ない事を確認し、家事参加など、それぞれの入居者様が出来る事を手伝っていただけるよう、関りを持っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事参加など、それぞれの入居者様が出来る事を手伝っていただけるよう、関りを持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来ていただけるよう、ご家族とも良好な関係を築けるよう努め、ご家族に相談しながら支援していける体制作りを心掛けている。支援の中でご家族からの声掛けが必要な場合などは協力頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自室内も馴染みの場所として、環境整備に努めている。大切にしてきた人や場所の話を聴くなどの関りを大切にしている。		

静岡県(グループホームハーベスト)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間の自席を決める際には、年齢や身体状況、性格などを考慮し、話をしやすい環境になるよう工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後などは、管理者が主に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向や、ご家族からも情報を収集してアセスメントをとり、一人一人に合った生活スタイルを考えて、実行している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時や、普段の会話の中から家の事や家族の事、若い頃の話などを聴く様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子や精神状態などの気付いた事は申し送りや支援記録にて、スタッフ全員が把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まず担当者がモニタリングし、その後カンファレンスで現状の問題点や改善点、ご本人がしたい事などを話し合い、ケアプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別に記録し、スタッフ間で共有、ケアプランに反映している。		

静岡県(グループホームハーベスト)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージや訪問診療など、ご家族やホームでは補えないサービスが提供できる環境整備に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんの訪問や、地域の行事に参加するなど、適度な変化のある暮らしが送れるよう工夫している。現在はコロナ感染予防のためボランティアは受け入れていないが、自治会の催しものに入居者様と共同制作したものを展示している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向に沿った医療が受けられるよう、主治医や協力医と連携をしながら支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルや体調などを記録に残し、細かな事でもきちんと相談出来るような体制を整えている。看護師による健康相談などもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	必要な情報を医療機関に提供したり、情報交換をすることで、適切な医療が受けられている。退院後の生活がより良い物になる様、情報収集に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約の際に、ご家族に説明して意向を確認している。必要時に話し合いの場を設け、主治医からの説明を受けたくうえで、出来るケアについてご家族に説明し、スタッフ間で共有して支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、ホーム内外の研修で学んだ事をスタッフ間で共有し、対応できるよう日々取り組んでいる。		

静岡県(グループホームハーベスト)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、入居者様一人一人の避難の方法を検討している。コロナ禍前は地域の防災訓練にも参加させていただき、情報交換や交流を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの仕方などについては、個々に考えてケアにあたっていますが、話が通じにくい事により、言葉が強くなりがちなどの反省点がある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、入居者様の話をよく聴き意見や希望などが言いやすい環境を整えられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースは大事にしているが、一日中寝ていては、気力が低下してしまう為、メリハリのある生活も考慮して、働き掛けを行う事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の入居者様には、声を掛けて髭剃りをこまめに行っていただいている。気に入っているものが身につけられたり、季節に合った服装が出来るよう、配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きを入居者様をお願いしている。野菜の皮むきや、寿し飯を一緒に冷ますなど、調理に携わってもらう事もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、きちんと記録している。水分摂取については、ゼリー状にしたり、味を変えるなどの工夫をして、摂取量が増やせるよう努めている。		

静岡県(グループホームハーベスト)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後にホットタオルで口の周りを拭くなどを行っている。口腔ケア時、必要な方には介助を行い、出血や異常があれば申し送るなどを心掛けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ間隔を気にしながら声掛けをし、できる限りトイレでの排泄を心掛けている。パットを日中と夜間で区別し、無駄のない様その人に合ったものを使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝に牛乳を飲んでいただいたりしている。毎回の水分摂取時に摂取量をきちんとチェックしている。体操時に、腸内運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々のパターンをつかんでいるので、気分や好みに合わせて順番を決め、気分良く入浴できるように配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室の室温や、掛布団の調節は常に気遣っている。静かな環境が整えられるよう、工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は一包化されているため、それぞれの入居者様が服用している薬の内容を全て把握できていないところがある。服薬介助時は、飲み込んだかの確認まで行う様に気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理強いはず、個々に合ったペースでお手伝いをお願いしている。適度に行事などを企画し、気分転換が図れる様、工夫している。		

静岡県(グループホームハーベスト)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は、ご家族の協力を得て外出支援を行っていたが、現在は、天候を見て近所を散歩するなどはあるが、外食などは中止している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いを所持している入居者様もいるが、現在は入居者様が直接買い物に出る事はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキの投函などの手伝いをしている。ご家族への電話を希望された際には、状況を考慮したうえで、直接話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りつけや、行事の写真を貼るなどを工夫している。清潔に留意している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の性格などを考慮し、グループごとに席を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人なりの居室ができています。ある程度は、ご本人やご家族に任せておりスタッフは整理整頓と清潔に気を配っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全が保てるよう、物の配置などに気を配り自室内のプライバシーを考え、のれんをつけたりと工夫している。字の理解が出来る方にはメモを貼って注意を促し、出来るだけ自立した生活が送れる様に支援している。		